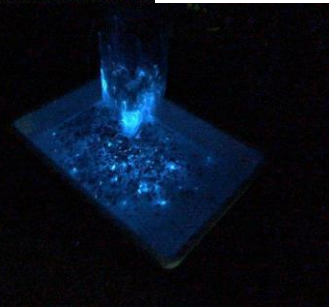


ウミホタル観察講座 開催しました！



- 日時 令和2年8月8日（土）18：30～20：30
- 会場 観音寺市豊浜町箕浦 箕浦港 箕浦自治会館
- 講師 香川県立三木高校 教頭 塩田 浩之 氏

8月8日（土）に、観音寺市豊浜町箕浦 箕浦港 箕浦自治会館で、ウミホタル観察講座を開催しました。初めに、講師から「ウミホタル」についての説明が行われました。

高度経済成長期を境に、海の水質が悪化しウミホタルを観察することが難しくなっていました。近年では水質も回復しつつあり、県内各地の海で観察ができるほどウミホタルが増えているというお話がありました。次に、県環境管理課職員より、ライフジャケットの着用方法について説明がありました。

その後、受講者たちは、事前に作製した砂利の入ったペットボトル製のウミホタル採集器の中に、エサとなる「鯛ちくわ」と海水を入れ、採集器を投入する波止へと移動しました。



※ライフジャケットの着用方法の説明の様子



※ウミホタル採集器に「鯛ちくわ」を入れる様子



※ウミホタル採集器を投げ込んで待つ様子。

波止へ移動してから、ウミホタルの採集器を海へ投げ入れて待つこと20分。待ち時間の間に、講師から、夏ならではの星座についてのお話や、ウミホタルの持つ物質（ルシフェリン）に酸素と酵素が絡むと青く発光することなど、普段生活している中で聞くことのできないお話を聞くことができました。

採集器の海水を勢いよくバットへ移すと、刺激でウミホタルが発光物質を吐き出し、海水中にある酸素と反応することで青い光を放ちます。ライトを当ててウミホタルの動きを観察すると、意外にも早いスピードで泳ぎ回っていて、受講者も驚いていました。また、幻想的に青く光る様子に、子どもから大人まで歓声を上げていました。採集したウミホタルは、観察の後に海へ返しました。バットから海へ返す時にも刺激で発光し、海面をただよっていました。



※鯛のあらをエサにして採集したウミホタルを手に塗布し、発光の様子。



※ライトを当ててウミホタルが動いている様子を観察。

講師からは、ウミホタルの光る様子を楽しむ方法として「ウミホタルのじゅうたん」や「ウミホタルのカクテル」を披露していただきました。受講者からは「すごく楽しかった。また自分たちで採取したい。」、「実際にさわることができたのですごく良かった。」、「ウミホタルがきれいに見れて子どもがとても感動していた。」等の声が上がりました。



※ウミホタルを海へ返す際、砂地へ打ち付けられる刺激により発光の様子。まるで「ウミホタルのじゅうたん」のよう。



※ウミホタルを入れたカクテルグラスに氷水を入れて発光の様子。まるで「ウミホタルのカクテル」のよう。